

第1回全世代・全員活躍まちづくりセンター運営評価委員会 議事概要

日 時	令和5年3月27日(月) 15:30~17:45
場 所	久御山町役場 5階 コンベンションホール
出 席 者	委員・事務局：別紙名簿+生涯学習応援課長補佐 高田、片田 アクティオ(株)：宮野・日置・石堂 (株)NHA：橋本・増崎 ※オンライン参加
議 題	全世代・全員活躍まちづくりセンター運営評価委員会
<p>1 開会</p> <p>2 町長あいさつ</p> <p>3 委嘱書交付</p> <p>4 全世代・全員活躍まちづくりセンター運営評価委員会の組織について 委員の互選により委員長・副委員長を選出 委員長：森 正美 氏 副委員長：山口 敬太 氏</p> <p>5 議題</p> <p>(1)基本設計について</p> <p>委員等からの意見・質問等は下記のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 木材の割合(使用率)について →基本設計段階なのでまだ不明。 →天井部分について、法律もクリアしていかないといけない。 ● 音楽室(和室と隣接)の防音性 →他の壁より防音性高めている。壁を厚くする。 ● 周辺がガラス張りだが、防災時にシャッターが下りる等あるか? →サッシの手前にグレーチング(溝)を設置する等対策を講じる予定。 ● 下足について ※旧公民館は基本的下足可 →児童コーナー、和室は下足(玄関設置)を予定。 ● 光熱費高騰に加えブックラウンジ等広い空間多いが節減対策は? →照明(LED、自動調光) 空調(吸込み口、吹き出し口の設置位置を工夫し無駄が無いように)等で検討。 ● 療育の天井について、天井からの吊り下げ器具の設置はあるか? →設置する予定。 ● 屋外のプールや砂場は? →外構設計時に検討(目線を切る等、プライバシーにも配慮) ● 中央公園の再整備について、老人福祉センター「荒見苑」をどう使うか課題になっているセンターの活用も増えるかも →設計でも高齢者に配慮を。 →町全体で方向性考えなければならない。運営にも関わる。 ● 利用者として町の職員は対象なのか? →全世代・全員活躍なので職員も対象。具体的には運営・町で検討。 ● 資材高騰等で事業費が上がってきている。町民にも丁寧な説明が必要。 	

(2)まちづくりセンター開館準備業務

(3)令和4年度まちづくりセンター開館準備業務 業務報告

委員等からの意見・質問等は下記のとおり

- 基本設計のサポートの事例としてカフェ事業者のヒアリング、現状について
→当初カフェの形状について、円形で設計されていたが、カフェ事業や京都府山城北保健所と協議の機会を設け、これを修正し設計に反映している。(休憩室の必要性、衛生面など)
- 民間の運営で違いを見せてほしい。気持ちのよい挨拶などを期待している。

6 意見交換

- 久御山町は企業が多いので、企業の活動もセンターに取り入れてほしい。
- 予算が高額なようなので寄付など検討してみては？
- すべての意見を取入れるのは厳しいが、少しでも取り入れて良いものをつくってほしい。
- パースを初めて見たが、子供たち喜びそうな建物
- 予算額を聞いてびっくりした。たいへんな事業だと思う。
- 久御山町はイメージが硬い。柔らかくなってくれば。
- 施設はトイレをはじめ清潔さが大切。
- 町民はお客さんとして使うのではなく、自分たちの施設として大事に清潔に使い自ら清掃するように清掃道具を置いておく。
→各部屋に清掃用具一式が揃ったロッカーを設置予定（備品リストに既にラインナップ済）
- 使う側の問題が一番。多くの人を呼び寄せていけないといけない。
- アクティオとよく話しながら企画を私たちでも考えながらやっていきたい。
- 空き地になっている現在の敷地に建物の間取りを白線を引いて会議をやってみては？
→「ミニくみ♪オープンへのみち」で子どもたち向けに白線で建物の間取りを描いてセンターのイメージをもってもらうことを考えている。
- 楽しみにしている。できれば、中央公民館にあった食事ができる施設がほしい。
- お祭りなど想像できるのが楽しみ。
- 人の輪を広げることが出来るようなコミュニティにしてほしい。
- 子どもたちが未来のセンターを支える人材になるようにしたい。
- 半年前にプレ・テストが出来るくらいに前倒しにプレ（活動）が出来るようにしてほしい。
- ゆうホール立ち上げ時に関わったが、運営をどのような形でやっていくか、人材を育てていくことが一番大事。
- リピーターをどうやってつくっていくか。閑古鳥が鳴かないようにしてほしい。
- 住民の力だけでなく、企業の力も必要。
- 企業さんの中には強い思いをお持ちのところもあると聞いているので、接点を持ちながらやっていきたい。
- カフェメニューは制約あるが検討していきたい。フードカーも引き続き導入を検討。
- 輪を広げることについては、今、明確な目的がない人も、ゆるく繋がる事が出来るようにしたい。
- 運営の前倒し（の活動）についてもアクティオと協議し進めていく。

■信貴町長発言

- まちづくりセンターは住民の皆さんが主役の施設
- これまでの本町における文化の流れを切らさないよう整備を進める。
- 今回、民間による運営が決まっているが、運営会社に任せるのではなく、知恵を出し合って役場や住民の皆さんも主体的に関わっていくことが重要と考える。

■山口副委員長発言

- 若年世代の声・ニーズをどう取り込んでいくか、ブックラウンジ、カフェがキーになる。
- 若年世代がふらっと立ち寄るところにしてほしい。
- ブックラウンジのような図書スペースは海外では「屋根のある広場」といわれる。
- ふらっと来た人が、「こんなことしたい」とリピーターになり、次に自主的に関わっていくような活動につながるブックラウンジの企画を期待したい。
- トークイベントや勉強会も相性が良いし、料理の本の特集があって、調理室でのプログラムがあって、ふらっと来た人に刺さるような企画にも期待したい。

■森委員長発言

- 山口副委員長の仰る「ふらっと」は若年層には大事。
- すべてを準備万端用意してではなく旅行でふらっと店に入るように、いつでもいけるという感覚が大事になってくる。そのオープンさ（緩やかな繋がり）をどうコントロールできるか。
- コンセプトとしては活動場所だけど出会いとつながりの場でもあり、居場所でもある。
- 新センターができる前に今から他の施設でも始めることが重要。
- 既存の他施設でも先んじて若者にオープンにしていき、その流れでオープンを迎えると新しいセンターにも行ってみようかという気になる。